

令和元年度第3回香芝市都市経営市民会議 議事要旨

開催日時	令和2年2月20日(木) 午前10時00分～12時00分
場 所	香芝市役所 本庁舎 3階 第1会議室
出席者	中川会長、平越副会長、芦高委員、石原田委員、井上委員、植田委員、小川委員、 沖本委員、粕井委員、北川委員、小西委員、清水委員、萩原委員、吉村委員 (計14名)
欠席者	中村委員(計1名)
事務局	企画部：堀本部長、遠藤理事 企画政策課：足立課長、宮崎主幹、吉谷主査、佐々木主任、浅田主事
議 題	1. 「第5次香芝市総合計画」策定について(人口ビジョン、基本構想) ①まちの将来像(キャッチコピー)について ②政策・施策体系の方針について ③人口ビジョンについて ④タウンミーティング開催報告 ⑤今後のスケジュール 2. 「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」進捗確認について ①令和元年度の総合戦略全体評価(年度末見込み)

各議題について

1. 「第5次香芝市総合計画」策定について(人口ビジョン、基本構想)

①まちの将来像(キャッチコピー)について

<意見及び質疑>

- 市民が共有する言葉(キャッチコピー)に英語を使うことは問題がないと考えているのか。
→(事務局)今回提案させていただいた5案のうち、2案に英語を使用している。全ての市民の方と12年間共有する言葉であるので、限定された世代にしか分からない英語は避けたいが、どの世代にもある程度浸透していると思われる範囲であれば使用してもよいのではないかと考えている。
:英語に馴染みのない世代もいる。英語を使うにしても、市民全員に伝わりやすいように考えていただきたい。
- 「まちの将来像」の説明に「ビジョン」と「キャッチコピー」の両方が使われているが、本来違う言葉なのでは。
例えば、企業でも「ビジョン」という言葉を使うが、全ての資源や資産を投入し「ビジョン」に向かって邁進していくという非常に大事な位置付けである。今回提案のあったものは「キャッチコピー」として、「元気」や「笑顔」などから連想した言葉で作られたものになっている。
資料3ページに、これからの「ビジョン」としてポイントが2つ明記されており、これが今後の判断基準になるものだと思う。このポイントを踏まえ、もっと真剣に考えるべきところではないか。
「笑顔」「元気」は全国どこにでも感じるように感じる。

- 「総合計画」においては、基本構想全体が「ビジョン」であり、それを万人に素早く理解してもらうためのものが「キャッチコピー」という理解である。
「キャッチコピー」だけで「ビジョン」の全てを伝えることはできないが、リーディングワードとして何が適切かということを考えていく必要がある。
→（事務局）ご指摘のとおり、「キャッチコピー」という言葉は「総合計画」の中では出てきません。あくまでも「ビジョン」を端的に表したいという主旨です。

- 5案のうち、No. 3にだけ「かしば」という言葉が入っていない。シンプルなものが市民の方にも印象が残ると思うので、No. 3がよいと思っているが、これにも最後に「かしば」という言葉を追加することはできないか。最後に「かしば」がついていないと言葉足らずに感じる。
→（事務局）本日、5案に対してご意見をいただき、それを踏まえて再度練り上げていきたいと考えているので、ご意見はどんどんいただきたい。

- No. 1は「案がなかった」という印象を与えるのでは。
No. 4は、最近話題のSDGsでも色分けして考えていく動きがあるが、それを香芝風にアレンジしていて印象がよい。「カラフルかしばのアイコンをつくり、アイコンバッチを職員がつけばチーム感が出て・・・」という説明があったが、表向きだけではなく、窓口を訪れる市民もチームの一員という気持ちで対応できるように、職員の意識も一緒に変えていってもらいたい。

- 最終的に「まちの将来像」がどの程度実現できたのかを確認する方法を考えておいた方がよいのでは。
例えば、No. 3にある「Smile City」であれば、市民アンケートで「笑顔で毎日暮らしている」という割合が増えたか、No. 4にある「colorful KASHIBA」であれば、市役所職員が作っているカラフルバッチが市民に浸透しているか、また香芝に対してカラフルなまちだというイメージを持つ人が増えたかなど、目標を測る指標をしっかりと作ったうえで、「キャッチコピー」を作った方がよいと考える。
どこの市町村でも指標づくりに苦労しているが、最初の企画段階で取り込まないと、後で考えることは無理である。それぞれの案に、確認する方法を紐付けしてからどれがよいかを選択する方がいいように思う。

- 今回提案いただいた5案の作成を若手、つまり未来を担う世代に委ねたのは、よいことだと思う。
「まちの将来像」の決定についてですが、途中で微調整することも見込んで進めてはどうか。現時点で決めてしまうと、これからの策定過程で、基本的な目標や構成などに軌道修正が生じたときに、揺らいでくる可能性がある。
今日の意見を受けて、再度議論しながら、行政の側で最適なものを選んでください。

②政策・施策体系の方針について

<意見及び質疑>

- 総合戦略と一体的に策定するとのことだが、どのような形になるのか。総合戦略の分類と階層（基本目標と施策）は、総合計画の分類と階層（政策と施策）と異なるが、どう紐付けるのか。
→（事務局）「総合戦略」としての目標を掲げたうえで、それが総合計画の政策・施策体系の中でどれにあたるかをマーキングするような手法で示していこうと考えている。
主に「子育て・教育」「産業・農業・観光」の2点が中心になると考えているが、他の分野でも関係する事業があればマークで示していく。

- この会議の場で、A案・B案のどちらかを選択するのか。
→（事務局）この会議の場では、選択しない。ご意見をいただき、再度考えたいと思っている。

- B案について。1つは、「文化」という言葉が政策から消えているが、文化政策や地域文化の振興は、香芝の未来にとって大きなファクターとなる気がしており、政策の名称に「文化」という言葉を残しておくほうがよいと思う。
もう1つは、政策03の名称に「生涯学習」という言葉が使われているが、「生涯学習」は、本来、子どもの教育も学校教育も含む言葉である。政策01の教育関連施策も含む言葉であることを考えると、政策03の名称として「生涯学習」を使っているのには違和感がある。
A案について。「産業・文化・連携」という言葉が同列に並んでいることが気になる。

- 活気あるまちをめざして、「産業・観光・農業」の順番をはじめの方に上げてはどうか。
→（事務局）政策の順番は、優先順位を表しているわけではなく、人に関わるものから順番に並べており、それぞれが重要な政策と考えている。

- 政策・施策の体系と市の組織体制とのリンクは、ある程度考えているのか。
→（事務局）ある程度整理したのがB案だが、複数の政策にまたがる部分はどうしても出てしまう。

- 「農業」も「産業」に含まれるので、B案の政策04で「産業」と「農業」が並んで書かれているのはどうなのか。
→（事務局）現行の政策・施策体系では「産業」を「商業」「工業」と捉えて表現していたため、今回の案でも同様に捉えて表現したが、ご指摘のとおりであり、整理したい。

- A案・B案共通して、施策07「地域福祉の推進」と施策15「地域コミュニティの醸成・活性化」は何が違うのか。
→（事務局）現行の総合計画では、「地域福祉の推進」は主に福祉分野の取り組み、「地域コミュニティの醸成・活性化」は主に自治会活動、市民団体活動の

取り組みと捉えている。

: めざそう値も、「ボランティア登録者数」と「ボランティア登録団体数」となっており、違いが分からない。

●次期総合計画でKPIを決めるときに、議論が必要。

●現行の施策33「地域経営システムの確立」がA案・B案では項目として消えています。その理由は。

→(事務局) 名称を変えてはいるが、A案・B案の施策31「行政運営の最適化」がそれに当たる。ただし、現行には、ふるさと納税事業も含まれていたが、新たに「歳入の確保と財源の創出」という施策を設定し、そこに移動させるなど、一部変更は加えている。

●現行の総合計画では、「地域コミュニティの充実・醸成」と「地域経営システムの確立」の内容が詰めきれなかったという反省がある。「地域経営システム」では、地域コミュニティが自ら地域社会を運営できる主体として確立していく中で、行政がどのようにバックアップするかを書かなくてはいけなかったが、結局は行政内部の経営システムについて触れるにとどまっている。次期総合計画では、団体自治として議会および市長が指揮監督する行政部門と、住民自治として地域社会を運営する自治会や民生委員会などの担い手との相互の協働で、香芝市はできていくという考え方を持った方がよい。現行の総合計画の全ての施策に「市民一人ひとりができること」の記載があるが、次期総合計画では、個人と法人の市民ができること、地域コミュニティができることを載せた方がよい。地域福祉をはじめ、”地域”とつく課題は、地域コミュニティとして、自治会・町内会を包含する総合型住民自治協議会が担っていくのが望ましいと思う。その方向まで香芝市が進むかどうか議論を深めてほしい。

●現行よりA案・B案の方が、住民に分かりやすい並びになっており、よいと思う。

●A案・B案の方向でよいので、どちらを選択するかはお任せする。

→(事務局) ご意見を参考に修正し、再度諮らせていただきます。

③人口ビジョンについて

<意見及び質疑>

●市の意向としては、どのように考えているか。

→(事務局) 事務局案としては、国立社会保障・人口問題研究所が公表している将来推計人口をもとに、市の政策による自然増・社会増を目指すC案の採用を検討している。

●現行の人口ビジョンにおいて、85,000人を目標として掲げているが、達成は見込めない状況である。次期についてもプラスαをせず、現実的な目標設定に留めるべきではないか。

- 現行の人口ビジョンでは、平成32年81,530人という推計となっているが、現在の人口は何人か。
→（事務局）約79,300人である。
- 目標85,000人は非現実的になりつつある一方で、香芝市としては、出生率向上による自然増・転入超過による社会増を目指すという人口ビジョンの策定を検討しているという趣旨と理解する。
- 市民満足度の向上、転入者の増加に資する施策が進展すれば、人口減少の抑制につながると考える。
- 現状はC案を有力候補として、以降、意見があれば協議を行う。

④タウンミーティング開催報告について

<意見及び質疑>

- 2月16日開催の総合福祉センターでのタウンミーティングには、約30人が参加したということだが、どの程度の参加者を見込んでいたのか。また、どのような方が参加されていたか。
→（事務局）新型コロナウイルスの流行や天候の影響も多少あったためと思われるが、予想人数よりも少なかった。内容としては、高齢者から子育て世代まで意見を頂戴することができ、充実したものになったと考えている。
- 私もタウンミーティングに参加したが、市と市民とが接点を持つための重要な機会であったと感じる。毎年開催してはどうか。
→（事務局）参考とさせていただく。
- 市民の意見は施策や事務事業の枠に捉われず、横断的である。総合計画の体系の中には、どのように調整機能を持たせるのか。
→（事務局）各部署の連絡調整や横の連携は、次期総合計画にも全体的な考えとして示していかなければならないと考えている。
- 意見を持っている方はたくさんいると思うので、自治会に働きかけたり、各団体に声を掛けたりするなどして参加を促せば、かなり充実すると思う。タウンミーティングでの意見をすぐに政策に反映させるのは難しいと思うが、生の意見を聞くことができるよい機会なので、次回開催の際は、人集めに力を入れるとよいのでは。

⑤今後のスケジュール

（今後のスケジュールについて報告）

2. 「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」進捗確認について

①令和元年度の総合戦略全体評価（年度末見込み）

<意見及び質疑>

- 基本目標4の施策1-1「公共施設などの維持・向上」について、この施策は第4次総合計画の施策3-4「財政運営の健全化」にリンクしていると思うが、資産の財政状態をより前面に出していくべき。公共施設等の維持管理は今後より重要な課題となってくるので、第5次総合計画での位置づけの仕方も含めて考えていってほしい。

→（事務局）第5次総合計画の案では施策32「持続可能な財政運営」の中で、公共施設等の維持管理における基本的な方向性を示し、総合計画の下に紐づく個別計画として、公共施設等総合管理計画があるという形になる。総合計画の中に「関連部門計画」として、公共施設等総合管理計画が表記される。

3. その他

<意見及び質疑>

- 国際連合で採択されたSDGsについての記載がなかった。国も協力を求めているはずだが、SDGsについては触れないのか。

→（事務局）SDGsとの関わりを施策ごとに記載する予定である。

:それであれば、基本構想にもSDGsについての説明を入れるようにしてください。

- 今、コロナウイルスについて皆さんとても心配していると思う。

現行の総合計画に「感染症予防」という項目はあるが、事業内容が「啓発」で終わってしまっており、いかにも平和状態の計画である。次期総合計画では、危機管理に関して1章を起す必要があるのではないかと。

いざ大災害が起こったときに、各部署が縦割りで動いてしまうようなことがなく、総合計画の秩序を守って対応していけるよう、記述があった方がよい。

- 現行の総合計画において「協働によるまちづくり」が、基本的な行動方針であったはずだが、この10年間であまり進化していないように見受けられる。次期総合計画では、「住民自治との連携」「団体自治との協働」「行政」の3つでなすべきことを進めることで効果が出てくるということを各章で示すよう、各部署に指令を出していただきたい。そうすることで、「地域コミュニティの醸成と活性化」は生きてくる。

香芝市は、県内でも珍しく自治会加入が90%を維持しているまちなので、地域コミュニティが崩壊しつつあることへの危機感がないが、対応しないとあっという間に瓦解してしまう。

自治会の後継者が出てこない、自治会長の高齢化は都市部共通の課題であり、今の体制で大災害の避難訓練が指揮できるか、要援護者リストに基づく救済活動が地域にできるかなどが、特に問われており、そういった面においても「地域コミュニティ」について、体制を整えていく必要があると思っている。

近畿圏内でも多くの自治体において総合型住民自治協議会を立ち上げる方向

へ進んでおり、香芝市ではどうしていくのかを本気で考えてほしい。第4次総合計画での「協働」を具体的に実現する方向にステップアップしないと、県内で最も遅れた総合計画になりかねない。

以上